

放課後等デイサービスに関する アンケート調査結果

- 事業所への調査結果 1 ページ

- 利用者（家族）への調査結果 15 ページ

放課後等デイサービスに関するアンケート調査結果 【事業所対象】

調査の概要

◆調査目的

放課後等デイサービスに関する課題を整理し、解決策の検討と市への提案を行うため、事業所の運営状況や利用状況、ご意見などを把握し、基礎資料とするもの。

◆調査期間

平成27年1月5日から平成27年1月13日

◆アンケート配布・回収状況

配布先事業所数 19箇所

回答事業所数 15箇所（回答率 約79%）

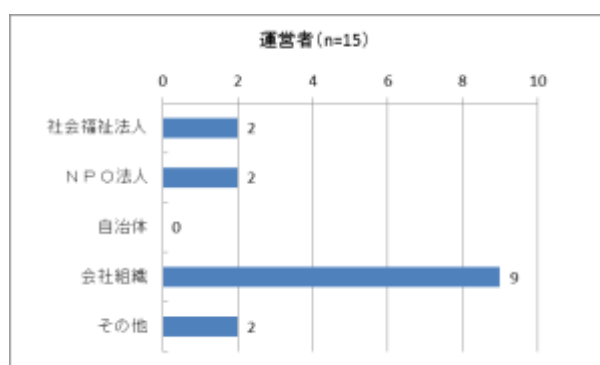
1 事業所の運営状況、利用状況について

1 所在地

回答のあった事業所の所在地（n = 15）

所在地	
中央	5
東	5
西	2
南	0
北	3

2 運営主体となる法人



運営者	
社会福祉法人	2
NPO法人	2
自治体	0
会社組織	9
その他	2

◎「その他」は、一般社団法人

<法人の性格>

放課後等デイサービスを主に行っている法人	8
未就学児の支援を主に行っている法人	1
障害者支援の事業を主に行っている法人	2
介護保険事業を主に行っている法人	0
社会福祉事業を全般的に行っている法人	2
その他	1
未記入	1

◎「その他」は、教育サービス業（通信制高校の運営）

3 同一運営主体（法人）が運営する放課後等デイサービス事業所数

熊本市内の設置数

⇒「1箇所」が7カ所

⇒「2箇所」が2カ所

⇒「5箇所」が5カ所

⇒「未記入」が1カ所

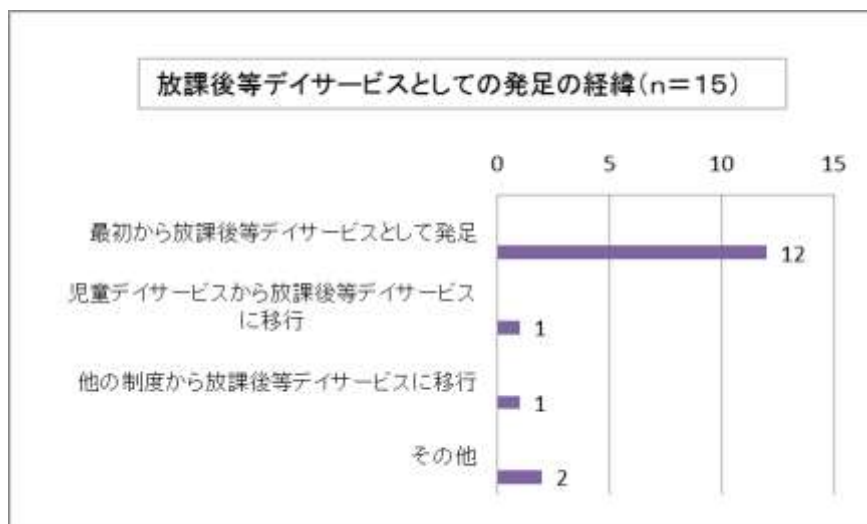
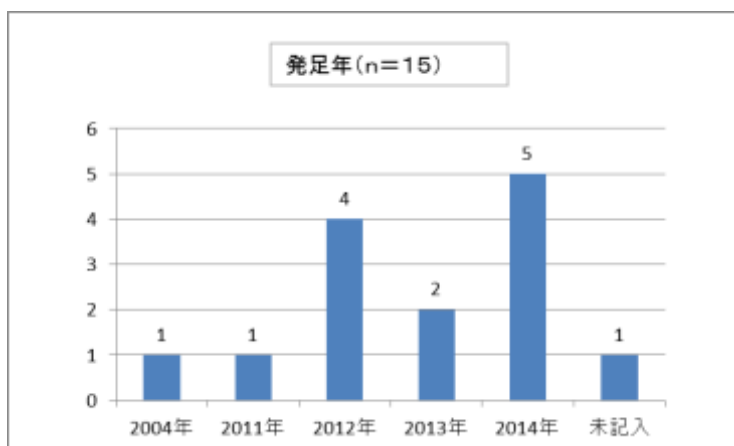
熊本市外の設置数

⇒「9箇所」が5カ所

⇒「0箇所」が9カ所

⇒「未記入」が1カ所

4 発足過程



※発足の経緯は、複数回答を行った事業所があるため合計数が異なる。

◎「その他」の回答

- ・ 支援学校等に在籍される方が訪問教育を受けられ事業所を併用される場合
- ・ 児童発達支援を行っており多機能型として放課後等を開設

5 開所日と時間

<開所日>

(カ所)	
平日の開所日数	
週5日	10
週4日	3
週3日	0
週2日	0
週1日	1
未記入	1
	15

(カ所)	
土曜日の開所日数	
週5日	3
週4日	7
週3日	0
週2日	1
週1日	1
未記入	3
	15

(カ所)	
日曜日の開所日数	
週5日	6
週4日	0
週3日	0
週2日	0
週1日	3
未記入	6
	15

<開所時間>

子どもが利用する平均的な時間について

【放課後（平日）】

- ⇒ 「17時00分まで」が7カ所
- ⇒ 「17時30分まで」が5カ所
- ⇒ 「18時00分まで」が2カ所
- ⇒ 「10時00分から15時00分」が1カ所

◎放課後の延長は「あり（20時まで）」が1箇所、「なし」が12箇所。（未記入が2箇所）

【学校が休みの日（休日・祝日）】

	(カ所)
1時間	1
2～3時間	1
4時間	3
5時間	1
6時間	4
7時間	0
8時間	2
8.5時間	2
未記入	1



6 送迎、食事の有無、費用負担について

<送迎の利用状況>

学校からの迎え	(カ所)
9割以上ある	11
5割以上ある	0
5割以下ある	1
ない	3

自宅付近までの送り	(カ所)
9割以上ある	10
5割以上ある	0
5割以下ある	0
ない	5

<給食の提供の有無>

⇒「ある」が7カ所

⇒「ない」が8カ所

<おやつ提供の有無>

⇒「ある」が12カ所

⇒「ない」が3カ所

<利用者の費用負担の状況>

回答項目	回答数
受給者証の金額のみ	1
他の費用あり	14



費目	回答数
送迎費	1
教材費	0
給食費	6
おやつ代	5
特別活動費	6
その他	2
複数回答あり	

◎「その他」は、バス・電車賃、外食費等

<児童発達支援事業の併設の有無>

⇒「併設している」が7カ所

⇒「併設していない」が8カ所

7 利用状況

<利用定員>

利用定員 (n=15)	
4名	1
5名	2
10名	12

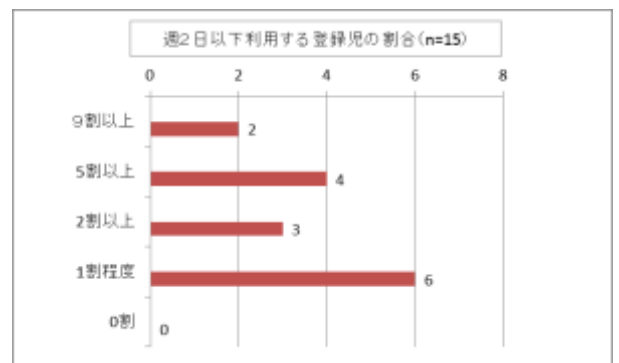
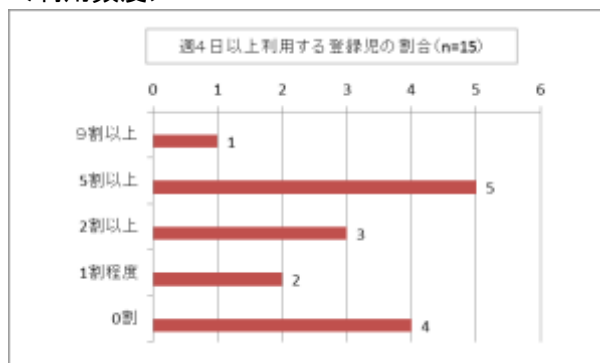
<1日あたりの利用実人数>

利用実人数 (n=15)	
2名	1
3. 5名	1
4~5名	1
5名	2
8名	3
10~12名	1
12名	2
13名	2
15名	1
未記入	1

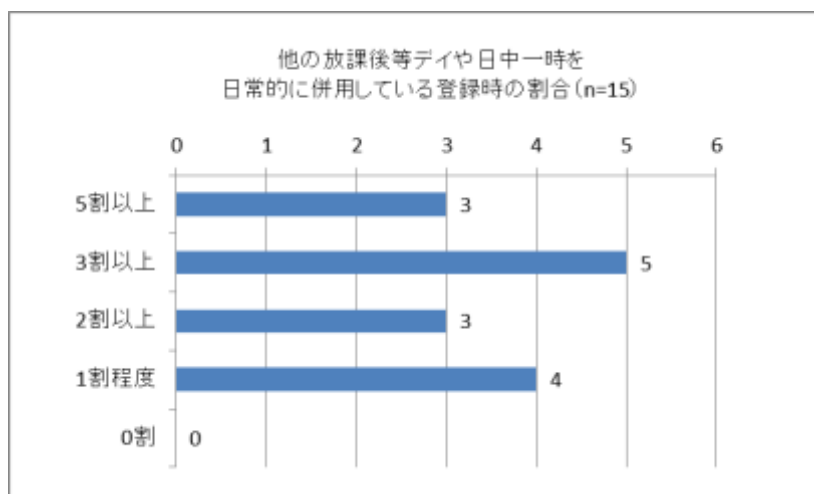
<登録児童数>

登録者数	小学生	中学生	高校生
0名	0	2	2
1~5名	1	6	9
6~10名	2	2	0
11~15名	3	2	0
16~20名	0	0	0
21~25名	2	0	0
26~30名	4	0	0
31~35名	0	0	0
36~40名	2	0	0
41名以上	0	0	0
未記入	1	3	4

<利用頻度>



8 複数の事業所への通所



9 子どもの在籍校

	8割以上	5割以上	2割以上	1割程度	0割
特別支援学校	4	3	3	2	1
特別支援学級	5	3	3	2	1
通常学級	0	1	1	4	5

<重症心身障がい児の受入れ>

⇒「受け入れている」が6カ所

⇒「受け入っていない」が9カ所

11 職員体制

<雇用形態>

	0名	1名	2名	3名	4名	5名	6名	7名
正職員	0	2	2	2	2	1	4	2
契約職員	10	4	1					
パート・アルバイト	3	2	2	1	6	1		
ボランティア	15							

<性別>

◎男性職員

- ⇒「0名」が8カ所
- ⇒「1名」が3カ所
- ⇒「2名」が4カ所

◎女性職員

- ⇒「3名」が2カ所
- ⇒「4名」が2カ所
- ⇒「5名」が4カ所
- ⇒「6名」が2カ所
- ⇒「7名」が5カ所

<事務員の有無>

- ⇒「いない」が10名
- ⇒「いる」が5名

⇒うち、「専任」は0名、「兼任」は5名（全員、常勤職員）

2 質問への回答について

問1 施設・設備について

項目	回答数	回答率
① 基本的にバリアフリーである	4	5.8%
② 子どものための部屋が2部屋以上ある	11	15.9%
③ 軽い運動ができる程度の広さの部屋がある	10	14.5%
④ 子どもが遊べる庭がある	6	8.7%
⑤ 近くに公園等がある	14	20.3%
⑥ 静養室がある	4	5.8%
⑦ 更衣室(きちんとした更衣スペース)がある	3	4.3%
⑧ 男女別のトイレがある	4	5.8%
⑨ 送迎や活動のための車がある	12	17.4%
⑩ 公有の土地・建物を使用している	1	1.4%
⑪ 自治体による家賃補助がある	0	0.0%
⑫ ①～⑪にはあてはまらない	0	0.0%

問2. 職員について

(a) 現在、子ども10人に対して、何人の指導員で活動していますか。(1つだけ)

項目	回答数
① 2人	1
② 3~4人	10
③ 5~6人	4
④ 7~8人	0
⑤ 9人以上	0

(b) 望ましい活動内容のためには、子ども10人あたり何人の指導員が必要ですか。(1つだけ)

項目	回答数
① 2人	1
② 3~4人	3
③ 5~6人	9
④ 7~8人	2
⑤ 9人以上	0

(c) 次の資格、免許を持った職員がいますか。該当するものにチェックをつけ、人数もご記入ください。

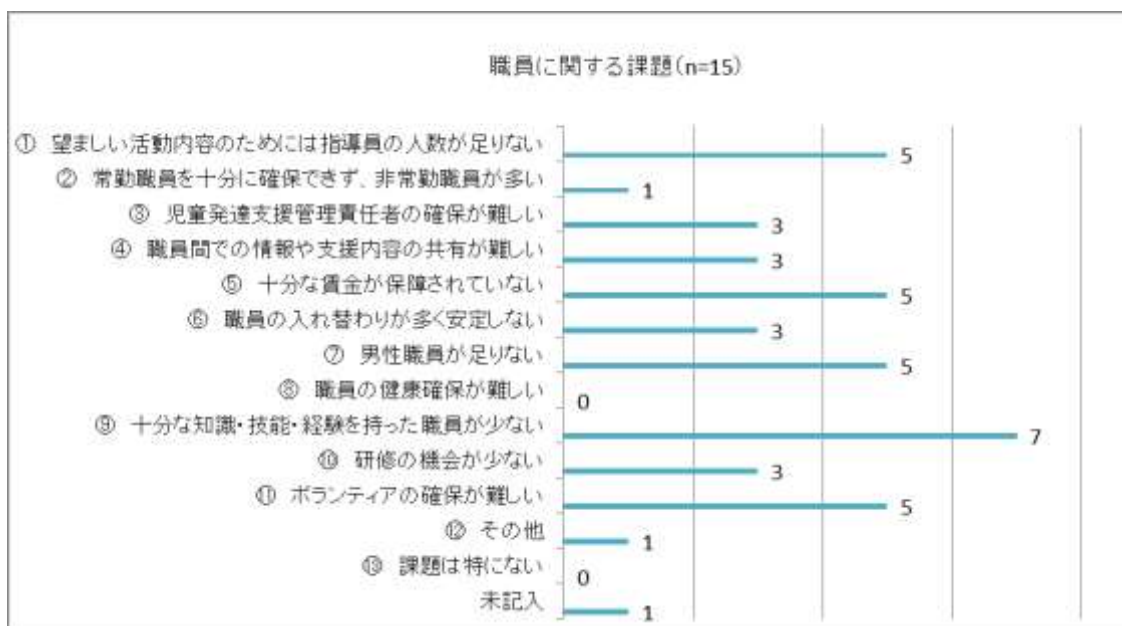
資格・免許を有する職員について(n=15)						
	0名	1名	2名	3名	4名	5名
社会福祉士	13	1	1			
介護福祉士	8	6	1			
保育士	3	5	5		2	
学校教員	9	3	2			1
理学療法士	15					
作業療法士	13	1	1			
看護師	10	4	1			
児童指導員	10	4			1	
有資格者なし	15					

(d) どのような課題がありますか。(あてはまるもの全て)

項目	回答数
① 望ましい活動内容のためには指導員の人数が足りない	5
② 常勤職員を十分に確保できず、非常勤職員が多い	1
③ 児童発達支援管理責任者の確保が難しい	3
④ 職員間での情報や支援内容の共有が難しい	3
⑤ 十分な賃金が保障されていない	5
⑥ 職員の入れ替わりが多く安定しない	3
⑦ 男性職員が足りない	5
⑧ 職員の健康確保が難しい	0
⑨ 十分な知識・技能・経験を持った職員が少ない	7
⑩ 研修の機会が少ない	3
⑪ ボランティアの確保が難しい	5
⑫ その他	1
⑬ 課題は特にない	0
未記入	1

◎「その他」について・・・

- ・児童発達支援と合わせての定員 30 名となるので単価が大変安い。職員はその時間帯にきちんと確保しているのでデイの定員の単価が保障されないと経営的に厳しい。10 人 616 単位 30 人 363 単位半分です。
- ・療育を母子通園で実施しており、一人ひとりのニーズに合わせて実施しており単独通園の放デイと同等の単価では経営的に厳しい。



問3. 活動内容について

よく行っているものを5つまで選んでください。

項目	回答
① 課題に応じた個別指導	8
② 集団での設定遊び	7
③ 学習	5
④ 描画・工作・書道など	11
⑤ 音楽活動	8
⑥ テレビやビデオ視聴	0
⑦ 室内での自由遊び	6
⑧ 室内での体育活動(トランポリン等)	1
⑨ 屋外での活動(散歩や公園等)	9
⑩ 調理	8
⑪ 宿題	8
⑫ おやつ	11
⑬ その他	6



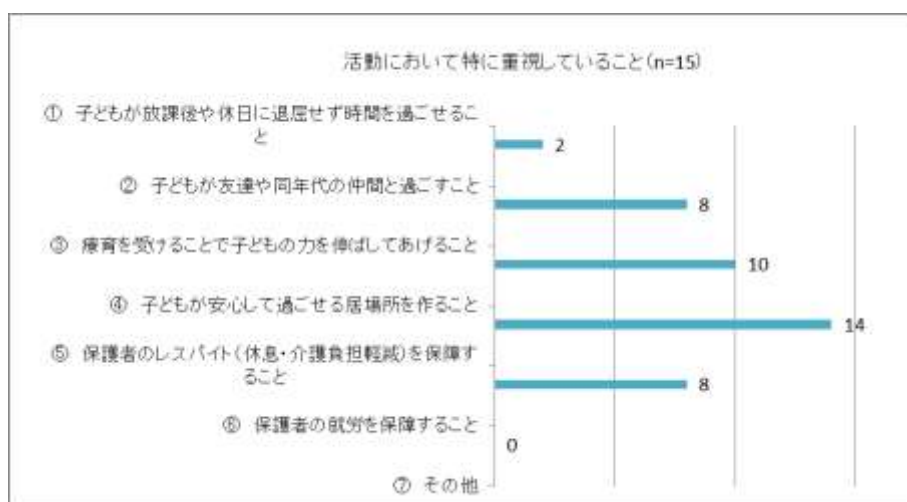
◎「その他」について・・・

- ・ ゲーム、カラオケ、本読み等集団活動
- ・ ソーシャルスキルトレーニング
- ・ 屋外での体験活動、買い物、食事、公共機関の利用など
- ・ 公共の乗り物、公共の場、外食等
- ・ 買い物擬似体験
- ・ OT（作業療法士）による訓練

問4 事業運営の目的・課題について

(a) 特に重視していることを3つまで選んでください。

項目	回答
① 子どもが放課後や休日に退屈せず時間を過ごせること	2
② 子どもが友達や同年代の仲間と過ごすこと	8
③ 療育を受けることで子どもの力を伸ばしてあげること	10
④ 子どもが安心して過ごせる居場所を作ること	14
⑤ 保護者のレスパイト(休息・介護負担軽減)を保障すること	8
⑥ 保護者の就労を保障すること	0
⑦ その他	2



◎「その他」について・・・

- ・保護者の教育アップ、子育ての支援
- ・将来（卒業後）に向けての自立

(b) 現在の課題について、あてはまるものすべてを選んでください。

項目	回答
① 子ども1人あたりが通える日数が少ない(定員に対して登録児が多い)	5
② 定員を増やしたいが、報酬単価が下がるので増やせない	2
③ 自治体が決定する支給量が少ない	1
④ 障がいの種類や程度との関係で受入れが難しい	9
⑤ 子どもにあった活動内容を保障しにくい	2
⑥ 計画・記録・振り返りなど、一人ひとりに丁寧な対応をする余裕がない	6
⑦ 財政面での運営が難しい	5
⑧ 子どもの急な欠席などが財政面に影響するため、運営が不安定になる	6
⑨ 書類作成や連絡など事務仕事の負担が大きい	5
⑩ 保護者の送迎の負担が大きい	2
⑪ 保護者の就労を保障できない	2
⑫ 保護者との共通認識をつくるのが難しい(活動内容や運営について)	0
⑬ 学校との間の送迎が難しい	1
⑭ 自宅との間の送迎が難しい	3
⑮ 課題は特にない	0
未記入	1

◎ 「障がいの種類や程度との関係で受入れが難しい子どもがいる」

- ・現在のハード面を含めた受け入れ環境
- ・車いすの子ども
- ・バリアフリーではない為車いす対応が難しい
- ・要医療行為者
- ・気管切開・人工呼吸など

◎ 「子どもにあった活動内容を保障しにくい」

- ・A 1の子とB 2の子の共存
- ・車イスでも行ける野外活動先が少ない

◎ 「書類作成や連絡など事務仕事の負担が大きい」

- ・相談支援事業所さんとのモニタリング担当者会議の対応と記録書き
- ・家庭との連絡事項が難しい

※夏休みなど、子ども1人あたりが通える日数が少ない

※帰りについては、保護者の負担が大きい などのご意見

- (c) 現在の活動内容についての悩みや課題はどのようなことですか。
現在の事業・運営にはどのような課題がありますか。
放課後等デイサービスの制度にはどのような問題点がありますか。
ご自由にご記入ください。

- ◎2-(d)で記載しましたが、多機能型事業所では定員が他の事業所との合計となるので、単価や大幅に下がってしまう(定員10人と21人以上では2倍近くの単価格差になる)ので運営が難しい。
- ◎放課後等デイの目的は?と考えると難しいです。本来は学校がやらなければならない事(学習面・ソーシャルスキル・保護者支援)まで放課後等でやっている(保護者のニーズである)。学校は学校内だけでなく、その子の生活全体を見て支援する視点を持って欲しい。(その子が放課後どのように過ごしているのか。関心がないのでは。)
- ◎放課後等デイに限らず、事務処理、書類作成が多すぎてそれに時間を取られてしまう。
- ◎職員のスキルアップのためには県外研修も積極的に出張して出していきたい。また、そうした研修をしなければ適切に子ども達に関わる事が難しいだけでなく、却って二次的問題を助長してしまうことになりかねない。しかし、研修の機会と職員の勤務時間、体制の確保、経営とのバランスが難しい。職員の学ぶ機会が近場で欲しい。
- ◎保護者のレスパイトと就労支援に重点がおかれると、子どものノーマライゼーションにとって別の問題が起きてくる。あくまでも、年齢にふさわしい生活時間やスキルの獲得など、子ども達の発達支援を行う場としての目標を明らかにしたほうがよい。
- ◎使用施設の規程が厳しすぎる。
- ◎重度のお子さんを迎え入れるための環境整備や、必要な職員の確保(正看護師)。
- ◎役所や国保連への毎月10日までの書類を整備し、他事業所とのやり取りを行わなければいけないシステムに時間が取られる。複雑なため、返礼も多い。
- ◎支給決定量が23日出ている子どもがほとんどだが、利用日数が保護者都合により少ない点。
- ◎家庭事情で異なりますが、23日では足りないご家庭も多い。
- ◎小学校との連携が難しい。学校での対応と事業所の対応で差があまりない様にしていきたい。情報交換できる場があればと思います。突然のキャンセルが多い。事前にわかっている例も多い支援計画やその他の書類にわかりやすいマニュアルが欲しい。

放課後等デイサービスに関するアンケート調査結果
【利用者（家族）対象】

調査の概要

◆調査目的

放課後等デイサービスに関する課題を整理し、解決策の検討と市への提案を行うため、利用者の利用状況やご意見を把握し、基礎資料とするもの。

◆調査期間

平成27年1月～平成27年2月

◆アンケート配布・回収状況

協力事業者数 13事業所

配布対象者 349人

回答者数 206人（回答率 約59%）

回答概要

問1 ご利用になっているお子さんの性別、学年、居住区を教えてください。

(男女別)

性別	回答人数	回答率
男性	139	67.5%
女性	67	32.5%
合計	206	100.0%

(学年別)

学年	回答人数	回答率	計
小1	23	11.2%	153人 74.3%
小2	28	13.6%	
小3	13	6.3%	
小4	12	5.8%	
小5	19	9.2%	
小6	6	2.9%	
小学生(学年記入なし)	52	25.2%	41人 20%
中1	6	2.9%	
中2	9	4.4%	
中3	4	1.9%	11人 5.3%
中学生(学年記入なし)	22	10.7%	
高1	8	3.9%	
高2	0	0.0%	
高3	1	0.5%	
高校生(学年記入なし)	2	1.0%	
未記入	1	0.5%	
合計	206	100.0%	

(居住区別)

居住区	回答人数	回答率
中央	49	23.8%
東	83	40.3%
西	16	7.8%
南	22	10.7%
北	35	17.0%
未記入	1	0.5%
合計	206	100.0%

問2 お子さんの状態についてお尋ねします。

①手帳の所持状況

手帳所持状況	回答人数	回答率
あり	164	79.6%
なし	40	19.4%
未記入	2	1.0%
合計	206	100.0%

(「手帳あり」と回答した人の内訳)

手帳種別		回答人数	回答率	
療育	A1	38	21.1%	157人 87.2%
	A2	54	30.0%	
	B1	31	17.2%	
	B2	34	18.9%	
身体	1級	11	6.1%	17人 9.8%
	2級	4	2.2%	
	3級	1	0.6%	
	4級	1	0.6%	
	5級	0	0.0%	
	6級	0	0.0%	
精神	1級	0	0.0%	3人 1.7%
	2級	2	1.1%	
	3級	1	0.6%	
未記入		3	1.7%	
合計		180	100.0%	
(うち重複)		16		

②診断名(主なもの)を記入された方の主な診断名

- ・高機能自閉症
- ・自閉症スペクトラム
- ・広汎性発達障がい
- ・ADHD など

問3 放課後等デイサービス制度をどのように知りましたか。(複数回答)

サービスを知った方法	回答人数	回答率
1 知人から聞いた	102	43.6%
2 学校から聞いた	33	14.1%
3 役所から聞いた	23	9.8%
4 相談支援員から聞いた	42	17.9%
5 その他	34	14.5%
合計	234	100.0%

(「5 その他」の主な内容)

- 児童デイサービス利用時に聞いた
- インターネットの情報
- 自分で調べた
- 新聞、チラシ、ポスター

問4 現在利用している放課後等デイサービスについて以下の表にご記入ください。

(利用箇所数)

1カ所	153人
2カ所	37人
3カ所	10人

問5 放課後等デイサービスの利用目的を教えてください。(複数回答)

利用目的	回答人数	回答率
1 放課後子どもが退屈しないため	59	9.2%
2 子ども同士で過ごす時間を作ってあげたいから	107	16.7%
3 療育を受ける事で子どもの力を伸ばしてあげたいから	155	24.2%
4 安心して預かってもらえる場所が必要だから	128	20.0%
5 家族の休養や用事を済ますため	99	15.4%
6 就労のため	72	11.2%
7 その他	21	3.3%
合計	641	100.0%

(「7 その他」の主な内容)

- 病院からの勧めがあったため
- 兄弟児との時間をつくるため
- 休日や長期休暇中に、生活リズムを崩さないようにするため
- 家で勉強する時間が整っていないため
- 将来、施設を利用することになった時に、親と離れても過ごすことができるようにするため

問6 現在利用しているサービスに満足されていますか。

①満足の状態

満足度	回答人数	回答率
1 はい	186	93.0%
2 いいえ	13	6.5%
未記入	7	3.5%
合計	200	100.0%

②-1 その理由（「満足している」と回答した方の主な理由）

- ・子どもが楽しんで通っているため。
- ・様々な活動が体験でき、子どもの成長がわかるから。
- ・スタッフが真剣に療育に取り組んでくれるから。
- ・送迎してもらえるから。

②-2 その理由（「満足していない」と回答した方の主な理由）

- ・事業所の予約が取れない。
- ・利用時間が短い。夜間に預かってくれない。
- ・支援者の障がいに対する知識が足りない。
- ・集団活動に子どもがなじまない。
- ・送迎サービスの充実、給食があると助かる。

問7 今後どんな活動内容を期待しますか。（3つまで）

期待する活動	回答人数	回答率
1 課題に応じた個別指導	125	19.2%
2 集団での設定遊び	83	12.7%
3 学習	51	7.8%
4 描写・工作・書道など	47	7.2%
5 音楽活動	46	7.1%
6 テレビやビデオ視聴	0	0.0%
7 室内での遊び	64	9.8%
8 室内での体育活動	80	12.3%
9 屋外活動	78	12.0%
10 調理	39	6.0%
11 宿題	18	2.8%
12 おやつ	2	0.3%
13 給食	8	1.2%
14 その他	10	1.5%
合計	651	100.0%

（「14 その他」の主な意見）

- ・SNSなど学校に望めないこと
- ・本人の居場所
- ・書道、スイミング等、習い事と組み合わせたプログラム
- ・親が支援できないことを支援して欲しい
- ・動物とのふれあい
- ・SST
- ・お泊りなど

問8 更に要望があればお書きください。

(主なご意見)

- 中学、高校で利用できるソーシャルスキルを勉強できるサービスがあればよい
- 進路についてのセミナーや経験談が聞いてみたい
- マンツーマンで学習指導をして欲しい
- 買い物や交通機関利用の練習
- 就労に向けて、作業なども取り入れて欲しい
- 時間の延長、夜間の預かり
- 事業所が増えて欲しい
- 車椅子を余裕をもって乗せられる大きな車を増やして欲しい
- 保護者の勉強会や講演会等の情報を提供して欲しい
- 行政機関主催の療育に活かせる研修の充実。出席事業所への収入補助。(人手不足による研修不参加を防ぐため)

問9 送迎についてお尋ねします。送迎を利用していますか。

送迎利用状況	回答人数	回答率
1 利用している	3	1.5%
a 学校→事業所→自宅	126	63.0%
b 学校近く→事業所→自宅近く	1	0.5%
c 学校近く→事業所→自宅	0	0.0%
d その他	29	14.5%
2 利用していない	37	18.5%
未記入	7	3.5%
合計	200	100.0%

(「1-d その他」の主な内容)

- 自宅→事業所→自宅
- 行きは保護者が送り、帰りのみ送迎

(「2 利用していない」主な理由)

- 本人が事業所の車に乗ってくれないから
- 事業所が送迎を行っていないから

問10 放課後等デイサービスを利用されるまではどのようにされていましたか。

サービス利用前の状況	回答人数	回答率
1 家族でみていた	151	63.4%
2 親類がみていた	19	8.0%
3 子どもだけで留守番していた	15	6.3%
4 習い事をしていて	6	2.5%
5 児童育成クラブを利用していた	24	10.1%
6 その他	23	9.7%
合計	238	100.0%

(「6 その他」の主な理由)

- ・日中一時支援を利用していた
- ・ファミリーサポートを利用していた

問11 現在児童育成クラブを利用されていますか。

利用状況	回答人数	回答率
1 はい	14	7.0%
2 いいえ	173	86.5%
未記入	13	6.5%
合計	200	100.0%

【自由記載意見（抜粋）】

- ・必要に応じて預かり時間が延長できるとよい。(6時間授業だと預かってもらえない)
- ・全事業所に送迎があるとありがたい。
- ・放課後等デイサービスをはじめ、どこに相談してよいかわからないことが多い。知る方法があると助かる。
- ・児童育成クラブでも、障がいの理解がある人がいれば安心して預けられる。
- ・医療的ケアが必要な子どもを受け入れられる事業所をもっと増やして欲しい。
- ・小、中学生になると療育する場所が少ないため、放課後等デイサービスがもっと増えると良いと思う。まだまだ利用できない人がたくさんいるので、もっと考えていただきたい。
- ・南区に事業所が少なすぎる。利用者の多いところに事業所を作って欲しい。
- ・夏休みなどの長期休暇は希望者が多く、希望する日に利用できないことがある。
- ・預かりメインの事業所が多く、療育をメインとするところが少ない。保護者に療育の大切さを理解してもらうための時間も必要。
- ・放課後等デイだけでなく、日中一時支援の事業所や短期入所施設の増加とニーズにあったサービスの拡大を望む。
- ・放課後等デイサービスだけでなく、行政的な預かりサービスなど、親が就労できるようなサービスを増やして欲しい。預かり時間が短いために仕事が選べない。
- ・月の利用日数を増やして欲しい。障がいの度合いによって支援の仕組みを変えて欲しい。軽度から重度が同じサービス支援では、重度の子の支援が疎かになる。

などのご意見がありました。